

みなさんこんにちは。2015年4月に大連日本人学校に派遣された櫃田圭子（湯梨浜町立東郷中学校所属）です。鳥取県からはこれまで何人かの先生方が大連日本人学校へ派遣されており、日本人学校勤務歴の長い中国人スタッフの方に「鳥取といえば〇〇先生を知ってる？」と尋ねられるなど、鳥取県の知名度もなかなかです。ご縁があることを嬉しく感じるとともに、「鳥取の先生」として見られるのだな、と少し緊張したりもしています。

中国での生活が1年半になり、慣れてきたところもありますが、まだまだ驚くことも多くあります。現在の街の様子や昨年度から移転した新校舎での大連日本人学校の教育活動をみなさんにお伝えしていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

大連市

遼東半島が世界的に注目を集めるようになったのは、日清・日露戦争の時です。清（当時の中国）が旅順に軍港を作り、町が形成されはじめました（それまでは静かな漁村だったそうです）。その後遼東半島は日本軍やロシア軍に租借され、旅順は日露戦争の激戦地として歴史に名を残します。その後、主に貿易のために商港として開発されたのが「大連」の街です。つまり大連は今では人口の600万の大都市ですが、もともとは近くにある（今は大連市の一部になっている）旅順に戦争の時に人が集まり、その後発展した若い街なのです。フランスのパリを真似して設計された街なので、市内には様々な広場や公園があり、それぞれは放射状の道でつながっています。迷子になったかなあと思うのほかに目的地の近くに来ていた、ということも珍しくありません。中国国内でも治安がよく、外国人にも住みやすい街と言われています。

日々感じているのは、「What a mixture!」（いろいろ混ざってる!）ということです。新しさと古さ。中国風、日本風に西洋風。豊かさと貧しさ。丁寧さと適当さ。あげればきりがありませんが、色々なものや価値観が混在しているのを感じます。この1年半の間にも、ある日突然大きなビルが取り壊されていたり、新しいお店がオープンしたりと、日々変化しているが目に見えて分かります。



友好広場

中国とソ連（ロシア）の友好を記念している広場。夜景もきれいです。

中山広場

（昼と夜）大連市の中心的な広場。広場に面した建物10棟の内7棟が日本人によって1900年代前半に立てられた洋館風の建物です。中国銀行（元横浜銀行）、夏目漱石も泊まったという大連賓館（元大和ホテル）が特に有名です。

<大連の素敵★Part1>

① 大連人

他人に親切にすることに躊躇がない人が多いです。特にお年寄りや小さな子どもにとっても親切で、バスや電車の中では必ず席を譲ります。私自身、言葉や作法が分からなくて困っている時に何度も助けてもらいました。先日は、お店に財布を忘れてしてしまい、閉店間際に慌てて探しにいくと、店員さんが中に入っていた名刺を手掛かりにちょうど電話をかけようとしているところでした。感動して何度もお礼を言うと「なんてことないよ」とまったく当たり前の様子で手をふってくれました。

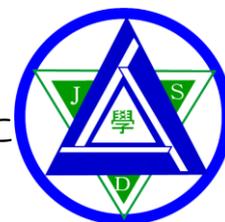
② 山の幸・海の幸

春はサクランボに苺、夏は西瓜や桃、秋は葡萄や梨に杏、そしてリンゴなど一年中美味しい果物が手に入ります。スーパーや路上市場で量り売りをしているのですが「食べてみて!」と気軽に声をかけてくれるので、色々なお店を見比べながら買い物をするのも楽しいです。最近はリンゴやナツメ、ザクロやイチジクを売っているのをよく見かけます。

また、大連は海に面していることもあり、海鮮が有名です。アワビやナマコなどの高級食材も日本より安価で手に入ります。生徒のお弁当にアワビの姿焼きが入っていた時にはびっくりしました。海鮮レストランでは、生簀にいる様々な海の生き物を指さしながら店員さんに調理法を伝えます。そういった注文ができるくらい、語学や食文化に詳しくなりたいと思います。



大連日本人学校 *Japanese School of Dalian*



昨年度校舎移転し、市内中心部から車でおよそ1時間の「経済開発区」にある新校舎で、附属幼稚園から中学部の子どもたちが学んでいます。

校章は1995年に当時の中学部生徒によってデザインされたもので、円の中に組み合わせた三角形には「幼稚園、小学部、中学部の3者がそれぞれ力を合わせて楽しい学校をつくる」という願いが込められています。

現在の児童生徒数はおおよそ140名。各学年1クラスの単学級編成で、1クラスあたりの人数は学年によって大きく異なっています。大きいクラスで30名弱、最小のクラスは私の担当する中学部3年生で、男女合わせて5名という生徒数です。



昨年赴任して一番に感じたのは「礼儀正しく温かい学校だ」ということです。上学年児童と中学部生は校舎3階で生活しますが、1階にある音楽室のすぐ隣は幼稚園教室です。異年齢の子どもたちと同じ空間で生活する中で、思いやりの精神や他者を尊重するマナーを身につけているのだと思います。次回は異学年交流など大連日本人学校の取り組み等について紹介します。